

国立大学法人静岡大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」のビジョンに基づき、人材育成を旨とし、質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、社会ニーズの高度化と工学分野の科学技術の発展を踏まえ、学士課程及び大学院修士課程教育を充実させるため、新たに電子物質科学、化学バイオ工学及び数理システム工学分野の教育プログラムを導入し、6年一貫制を意識したカリキュラムの改定に取り組んでいるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 超領域研究推進本部を中心とした重点研究4分野の組織的研究の成果を踏まえ、電子工学研究所を再編し、「グリーン科学技術研究所」を新設したほか、電子工学研究所、グリーン科学技術研究所及び創造科学技術大学院への教員配置については、コア教員（研究所又は創造科学技術大学院を本務とし、各々の研究科を兼務する教員）とサブコア教員（各々の研究科を本務とし、研究所又は創造科学技術大学院を兼務する教員）を任期付きで配置するとともに、研究所長の選考については、学長の意向を選考段階から反映できる仕組みを導入している。
- 情報の一元管理とスピード感を持った大学改革に対応するため事務組織を再編して「企画部」を設置したほか、教職員及び学生に対する技術提供及び支援を行うことを目的に「技術部」を設置し、教育・研究の質の向上を図る体制を整備している。
- 新規採用の女性教員へのメンタリング、研究支援員制度の運用と活用、教職員への学会参加時保育支援制度や不妊治療・妊娠に係る医療機関等受診のために必要と認められる期間取得できる休暇の新設など、より使いやすい形でワークライフバランス施策の整備を行っている。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向けた取組に努めることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①財務分析結果の活用、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、
③経費の抑制、④資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 競争的資金が不採択になった者のうち、ボーダーライン上の希望者に対し、学長裁量経費「教育研究プロジェクト推進経費再チャレンジ支援経費」の配分を行っているほか、「静岡大学未来創成基金」を設立するなどの取組を行っているものの、外部資金比率は法人化以降、最も低い 6.1 % (対前年度比 2.5 ポイント減) となっていることから、外部資金獲得に向けさらなる取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「静岡大学サポーターズクラブ」を立ち上げ、学生・教職員や同窓生に限らずに、静岡大学に関心を持ち応援しようという市民、団体、企業等に対して、静岡大学の情報を発信するとともに、会員間の交流や情報を双方向で交換するためのネットワークを構築している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 10 年連続となる ISMS (情報セキュリティ管理国際認証, ISO27001) の認証を継続しているほか、情報セキュリティ管理及び情報サービス水準向上にこの間一貫して努めてきたことや情報セキュリティに関する普及啓発の充実が評価され、大学としては全国で初めて ITSMS (情報サービス国際認証, ISO20000) を取得している。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 研究費の不正使用防止に向けた取組については、研究費の不正使用防止に関する基本的な知識の確認を内容とした web 研修を実施し、教員への適正な知識の周知を図るとともに「研究費の使用ハンドブック」を作成し、周知しているほか、研究費管理責任者自らが予算執行を管理できる収支照会システムの整備等の取組が行われているが、過年度における研究費の不適切な経理が確認されていることから、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成のためにはやや遅れている

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、研究費の不適切な経理があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学士課程及び大学院修士課程教育を充実させるため、新たに電子物質科学、化学バイオ工学及び数理システム工学分野の教育プログラムを導入し、学士課程 4 学科・大学院修士課程 5 専攻体制から学士課程 5 学科・大学院修士課程 6 専攻体制とする改組 (平成 25 年 4 月) を行うことを決定している。
- 就職支援について、全学キャリアサポート委員会において、学生の就職内定率の向上のために数値目標を設定し、部局をサポートする全学的な学生就職支援体制を強化しているほか、大学教育センターのキャリアデザイン教育・FD 部門や博士キャリア開発支援センターと情報共有等を行い、総合的なキャリアサポート体制を強化している。

- 大学院教育の国際化を推進するため、すべての講義等を英語で行う「グローバル農学人材育成コース（大学院修士課程：若干名）」を平成 25 年度から秋季入学として導入することを決定している。
- 新しい共通教育科目として2年次生向けの少人数のインターンシップ科目、3年次生向けの「大学での学びとキャリア」を開設している。また、インターンシップをPBL（課題解決型学習）型のアクティブラーニングと結びつけた「産業界のニーズに対応した教育改善」事業として、全学インターンシップ科目「インターンシップの理論と実践」を企画し、プロトタイプ授業を実施しているほか、しずおか就職連絡会議との定期協議による県内産業界ニーズの把握と協力体制の構築等、キャリア教育の充実を図っている。
- 浜松・東三河地域の 16 機関（産学官金）が連携して『「先端光・電子技術」と「ものづくり基盤技術」の融合によるライフフォトンクスイノベーション』事業を開始し、地域における中核研究機関として、研究者を招へいし、テラヘルツ波の光源・検出装置の試作開発やタンパク質・有機分子の分子構造の同定の研究を推進している。